

令和 8 年度岐阜県後発医薬品安心使用協議会 議事要旨

日時：令和 8 年 9 月 1 5 日（火）午後 2 時～3 時 3 0 分

場所：岐阜県庁 行政棟 1 9 階会議室

1 議題

- (1) 会長の選出について
- (2) 後発医薬品の最近の動向について
- (3) 地域で協働して作成する推奨薬リスト（地域フォーミュラリ）について
上記（1）について、岐阜薬科大学 井口 和弘 教授を会長に選出
上記（2）について、事務局及び日本ジェネリック製薬協会 小埜 伸忠
委員代理から説明
上記（3）について、事務局から説明

2 委員からの意見等

○ 後発医薬品の最近の動向について

（委員）

都道府県別の使用割合に差があるが、その原因は調査されているか。

（委員）

明確な原因は特定されていないが、全国的な傾向として、九州・沖縄が高く、東日本は低い。また、大都市圏は医療施設が多く、使用比率に差が出やすい。

（委員）

医薬品の供給不足が深刻な中、国内で安定した生産体制を整えるためには原薬の供給ルートを確認することが必要だと思うが、メーカーにおいて目途は立っているか。

（委員）

原薬製造については、以前、国内で製造していたものが海外へ移行していった。現在、国において国内製造回帰に向けた予算が少しずつ組まれている状況にある。また、後発医薬品の原薬のうち海外産が占める割合は 6 割程度。先発品も 5 割程度と同様の状況であり、後発医薬品に限った問題ではない。

（委員）

主治医から先発品にすると言われ、そのまま処方を受けているが、薬局では後発品しかないと言われることがある。どちらが良いのか自分では判断できず、疑問を感じている。

後発医薬品の使用割合が 90%を超えていることに驚いた。以前のイメージとは大きく変わっており、時代の変化を感じた。

○ 地域で協働して作成する推奨薬リスト（地域フォーミュラリ）について

（委員）

県薬剤師会における地域フォーミュラリに係る方向性は、現時点では白

紙の状態。医療保険財政は非常に厳しい状況にあり、医療制度全体の持続可能性を高めるため、情報共有し、進むべき方向を一緒に考えることが重要だと認識している。焦らず、各団体と合意形成を図りながら進めることが肝要。

地域フォーミュラリに関わらず、現在、高山市と岐阜市において医薬品分譲システムを活用したデータ蓄積を進めており、県全体でのデータ集積体制を整えたいと考えている。

(委員)

地域フォーミュラリについては現時点で情報が少なく、県医師会としても対応方針は定まっていない。国が提示する資料はメリットしか書かれておらず、デメリット等の慎重な検討が必要。

先月開催された中部医師会連合の会議で地域フォーミュラリが議題として出されたが、各県の状況として、取り組んでいる地域がある県もあれば、別の方策を検討するとしている県もある。

特定の中核病院に限って取り組むことも考えられるが、難しい面がある。

(委員)

方向性としては必要な取組であると考えられる。どの領域で行うか、どの医薬品とするか等の選定に係る根拠について先行事例での状況を含めて検討が必要。本議題について持ち帰り県歯科医師会内でも検討したい。

(委員)

先ほどあった意見のとおり、資料にはメリットしか書かれておらず、デメリット等の慎重な検討が必要。エビデンスに基づいた薬剤の選定等分からない部分が多いため、まずは理解を進めていく必要がある。

(委員)

病院では、診療所からの紹介で入院した患者の薬が病院で採用されていないものである場合、薬を変更し、退院後にまた薬を変更しなければならない可能性がある。地域フォーミュラリが浸透した場合、継続して同じ薬を飲んでいただくことが可能になると思われる。

また、病院では医師が専門ではない薬を処方する場合に、病院薬剤師が提案させていただく場合があるが、そういった際の参考となることが考えられる。

(委員)

災害対応という観点では、モバイルファーマシーの出動時も、地域フォーミュラリにより地域内で使用される薬剤が概ね決まっていれば、必要な薬剤を迅速に提供できる。

今後、日本フォーミュラリ学会を招いたセミナーの開催など、取組みへの支援が可能。

(委員)

他県のセミナーに参加した際、地方等で専門の医師が減っていく中で、地域フォーミュラリによって専門ではない医師でも標準的な治療が行えるという話が印象に残った。

デメリットとしては、特定のメーカーの医薬品に固定されてしまい、供

給不足があった場合に切り替えが難しくなるというリスクが考えられるため、あくまで成分単位での推奨であると案内いただく必要がある。

(委員)

高齢者は自分の意思を強く持っており、医師・薬剤師からの説明が伝わりにくいケースが多く、各医療機関・薬局でも対応に苦勞しているのではないかと推察する。地域フォーミュラリについても、徐々に話を進めていくしかないが、難しいと感じている。

(委員)

地域フォーミュラリに対する動きは都道府県によって温度感が異なり、各関係団体からの意見を聞きながら方向性を考えていく必要がある。全国健康保険協会としては、薬効分類ごとに地域別の使用成分や数量、割合等のデータを提供することができる。特定の地域の状況把握をする際の参考資料として活用いただけるため、各団体からお声かけがあれば協力していきたい。